

(案)

# 我が国のユネスコ活動について

(平成27年3月～平成27年6月)



平成27年6月



日本ユネスコ国内委員会

Japanese National Commission for UNESCO

本報告は、平成27年3月から平成27年6月までの活動を中心に記述しています。  
また、密接に関連するものについては、日本ユネスコ国内委員会以外の活動も記述  
しています。

# 目 次

## < TOPICS >

ユネスコ・クリエイティブシティーズ(創造都市)・ネットワーク会議金沢 2015 .....	1
平成27年度ユネスコ活動費補助金交付決定 .....	1

## < 日本ユネスコ国内委員会活動報告 >

教育分野における取組 .....	3
ユネスコスクールへの取組 .....	3
科学分野における取組 .....	5
政府間海洋学委員会 (IOC) .....	5
国際水文学計画 (IHP) .....	5
人間と生活圏 (MAB) 計画 .....	6
文化分野における取組 .....	6
世界遺産条約 .....	6
無形文化遺産保護条約 .....	7
信託基金を通じたユネスコへの支援 .....	8
各国との交流 .....	9

## < 民間ユネスコ活動 >

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 .....	11
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター .....	22

## < 日本ユネスコ国内委員会に関する参考資料 >

国際会議等一覧 .....	27
ユネスコ関係者来日一覧 .....	30
国内委員会会議 .....	30
国内委員会委員人事 .....	30
国内委員会事務局人事異動 .....	31
日本／ユネスコパートナーシップ事業 .....	32
ユネスコ活動費補助金 .....	32
政府開発援助ユネスコ活動費補助金 .....	33
日本ユネスコ国内委員会後援名義一覧 .....	35
ユネスコスクール新規加盟校一覧 .....	37

## ユネスコ・クリエイティブシティーズ(創造都市)・ネットワーク会議 金沢 2015

平成 27 年 5 月 25 日 (月) ~ 28 日 (木)、石川県・金沢市においてユネスコ・クリエイティブシティーズ(創造都市)・ネットワーク会議金沢 2015 が開催されました。本会議では、ユネスコの文化局が実施するクリエイティブシティーズ・ネットワーク事業の世界の加盟都市代表が一堂に会しました。世界各国から、市長をはじめとする多くの関係者らが来日したほか、ユネスコからはリン・パチェット文化局担当事務局長補佐課長らが出席しました。また、文部科学省からは山脇国際統括官が出席し、文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会を代表して来賓祝辞を述べました。

2004 年より始まったユネスコ・クリエイティブシティーズ・ネットワーク事業は、創造性や文化産業を地域発展の核とする都市の意欲ある活動により発展し、現在 32 개국 69 都市が登録されています。我が国からも 6 都市が登録されており、国内においても本事業に対し大きな関心と期待が寄せられています。現在、新規加盟都市の募集が行われており、我が国からの新たな加盟都市の誕生が期待されます。



山脇国際統括官の挨拶

## 平成27年度ユネスコ活動費補助金(グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業) 交付決定

文部科学省では、教育委員会及び大学等が中心となり、ESDの推進拠点であるユネスコスクールと共にコンソーシアムを形成し、地域においてESDを実践することにより、ユネスコスクール以外へのESDの普及を図るとともに、国内外のユネスコスクール間の交流の促進を通じ、国際的視野を持つグローバルな人材の裾野を広げることを目的として、ユネスコ活動費補助金(グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業)を昨年度より実施しています。

平成27年度については、以下のコンソーシアム(10件)が補助対象として決定されています。(詳細についてはP.31参照)

### 【ESDコンソーシアム】(平成27年度事業総額:57百万円)

- 東北の自然環境と防災および国際連携をコアとしたグローバル人材の育成とESD地域モデルの創出 (宮城教育大学)
- 北陸における知の拠点形成によるESD推進事業 (金沢大学)
- 三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム (三重大学)

- グローバル人材育成を見据えたESDコンソーシアムの構築とユネスコスクール間交流によるESDの推進ー国際(Think global)と国内(Act local)の融合ー (奈良教育大学)
- グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業 (福岡県大牟田市教育委員会)
- グローバル人材の育成に向けた地域と協働した岡山型ESD推進事業 (岡山市教育委員会)
- グローバル人材育成をめざした福島原発被災地域におけるメディア活用型ESD地域学習支援モデルの創造 (法政大学)
- 人間力を育む千葉ESDの地域展開 (千葉大学)
- 各校種のユネスコスクールの特長を生かしたESD活動の展開と定着の試み (中部大学)
- 四国におけるグローバル人材の育成に向けたESD地域モデル推進事業 (愛媛県新居浜市教育委員会)

# 日本ユネスコ国内委員会活動報告

## 教育分野における取組

### ESD 推進の取組

#### ESD 特別分科会の設置

「ESDに関するユネスコ世界会議」の成果を踏まえ、ESDの更なる推進に向けた取組の検討を目的として、日本ユネスコ国内委員会教育小委員会にESD特別分科会を設置しました。これまでに4回開催し、今後のESDの推進方策について、学校や地域をテーマとした委員によるプレゼンテーション等も踏まえ、議論を深めてきました。第5回会議では、これまでの議論の成果を報告書にまとめる予定であり、本報告書を受けて、ESDの取組を一層強化していきます。

#### ユネスコ/日本ESD賞

ユネスコは、世界中のESDの実践者にとってより良い取組に挑戦する動機付けと、優れた取組を世界中に広めることを目的として、「ユネスコ/日本ESD賞」を創設し、過日、第1回目の国際公募を開始しました。

これを受けて、ユネスコに推薦する我が国の取組を選定するために、国内公募・審査を行い、以下の3件をユネスコに推薦しました。

ユネスコへの推薦案件(順番は受付順)

事業名:岡山ESDプロジェクト(岡山ESD推進協議会)

事業名:ESDカレンダーを活用したホールスクールアプローチによる日本と世界の学校教育の改革  
(江東区立八名川小学校)

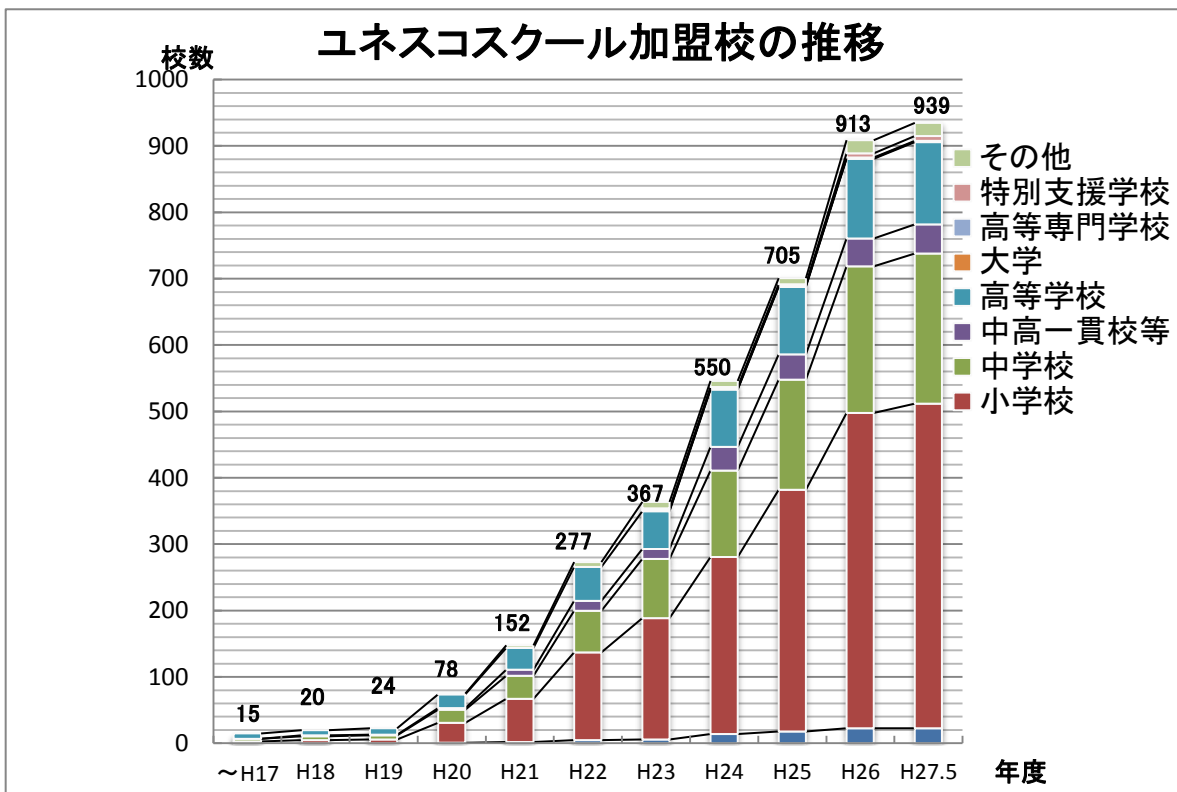
事業名:目の前の課題に真摯に向き合うコミュニティのリーダーを生み出す「マイプロジェクト」  
(認定特定非営利活動法人カタリバ)

今後、ユネスコは、世界中から推薦された取組の中から3件の受賞を決定し、受賞団体・者へはそれぞれ5万USドルが授与されます。

### ユネスコスクールへの取組

#### 加盟校数の増加

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールを持続可能な開発のための教育(ESD)の推進拠点として位置づけています。平成27年6月現在、世界182か国の国・地域で10,422校のユネスコスクールがあります。日本国内の加盟校数は、「国連持続可能な開発のための教育の10年(DESDE)」が始まった平成17年から飛躍的に増加しており、平成27年5月時点で939校となり、1か国当たりの加盟校数としては、世界最大となっています。



	幼稚園	小学校	中学校	中高一貫校等	高等学校	大学	高等専門学校	特別支援学校	その他
~H17		3	4		8				
H18		5	6	1	8				
H19		6	6	1	10	1			
H20	1	30	20	2	21	3			1
H21	2	65	35	9	33	4			4
H22	5	132	63	15	51	4			7
H23	6	183	89	15	57	4	1	2	10
H24	14	267	130	36	86	5	1	2	9
H25	18	364	166	38	102	5	1	2	9
H26	23	475	221	42	120	5	1	6	20
H27.5	23	489	226	44	124	5	1	7	20
								総計	939

## 科学分野における取組

### 政府間海洋学委員会 (IOC)

#### 第 28 回 IOC 総会・第 48 回 IOC 執行理事会

平成 27 年 6 月 15 日～25 日、パリ(フランス)のユネスコ本部において、第 28 回 IOC 総会・第 48 回 IOC 執行理事会が開催されました。我が国からは、植松 光夫 IOC 分科会主査(団長)、道田 豊 IOC 分科会調査委員・元 IOC 副議長、小松 輝久 東京大学大気海洋研究所准教授、河野 健 海洋研究開発機構地球環境観測研究開発センター長、尾崎 友亮 気象庁地震火山部地震津波監視課国際地震津波情報調整官らが出席しました。

総会では、2016-2017 年 IOC 事業・予算のほか、全球海洋観測システム(GOOS)、地域津波警報システム等の国際的な観測システムとデータ管理について議論が行われました。

### 国際水文学計画 (IHP)

#### 第 3 回国連防災世界会議

平成 27 年 3 月 14 日～18 日に、宮城県・仙台市に於いて、第 3 回国連防災世界会議が開催されました。本会議には、187 の国連加盟国が参加しました。各国元首・首相等を含め 6,500 人以上が参加、関連事業を含めると国内外から延べ 15 万人以上が参加し、日本で開催された史上最大級の国連関係の国際会議となりました。(参加国数では過去最大)。防災に対する国際社会の政治的なコミットメントを得て、防災の主流化を進める上で、大きな成果となりました。

我が国からは、ユネスコのカテゴリー 2 センターである水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM) がワーキングセッションを主催したほか、ICHARM の研究者がパブリックフォーラムにおいて、積極的に各セッションに貢献し、世界への発信を行いました。



#### 第 7 回世界水フォーラム

平成 27 年 4 月 12 日～17 日に、テグ(韓国)において、世界水フォーラムが開催されました。世界水フォーラムは、3 年に一度、世界中の水関係者が一堂に会し、地球上の水問題解決に向けた議論や展示などが行われる世界最大級の国際会議です。

我が国からは、竹内邦良 ICHARM 顧問、小池俊雄 ICHARM センター長、沖 大幹 IHP 分科会調査委員、立川 康人 IHP 分科会調査委員らが出席し、我が国の



水防災に関する取組を発信するとともに、我が国の IHP 活動についてモニター・カタログ展示を行いました。水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM) がいくつかのセッションを主催するとともに、IHP 東南アジア太平洋地域運営委員会 (RSC in SEAP) と韓国環境研究所 (KEI) との共催で「気候変動の影響と脆弱性に対する科学技術ツールと方法論の開発及び強固かつ弾力性のある水の管理のためのアジア・太平洋地域における科学協力」に関するセッションを行いました。

## 人間と生物圏 (MAB) 計画



### 第 27 回人間と生物圏 (MAB) 計画国際調整理事会

平成 27 年 6 月 8 日～12 日、パリ (フランス) のユネスコ本部において、第 27 回人間と生物圏 (MAB) 計画国際調整理事会が開催されました。我が国からは、松田 裕之 MAB 計画分科会調査委員、板倉 寛 文部科学省大臣官房国際課課長補佐ほか 2 名が出席しました。

MAB 計画は、生物多様性や貴重な環境を保護しつつ、自然と人間が共存して持続可能な発展を続けていくことを目指しており、ESD やサステナビリティ・サイエンスの理念と深く関

わっています。

本理事会では、各国から提案された新規生物圏保存地域の審査 (日本は該当なし) や、2015 年から 2025 年までの MAB 活動の戦略文書が採択されました。

## 文化分野における取組

### 世界遺産条約

#### 「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」及び「ル・コルビュジエの建築作品」の推薦

平成 26 年 9 月 17 日、外務省主催で世界遺産条約関係省庁連絡会議が開催され、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」及び「国立西洋美術館」(フランス政府が日本を含む 7 か国共同で推薦する「ル・コルビュジエの建築作品」の構成資産の一つ) を世界遺産に登録するための推薦書 (暫定版) をユネスコ世界遺産センターに提出することが決定されました。さらに、平成 27 年 1 月 14 日には、同会議において上記 2 件の推薦書 (正式版) をユネスコ世界遺産センターに提出することにつき閣議了解を求める旨決定し、同月 16 日の閣議了解を経て、推薦書 (正式版) がユネスコ世界遺産センターに提出されました。

今後の予定としては、本年 9 月頃に諮問機関 (イコモス (国際記念物遺跡会議)) による現地調査が行われた後、明年 4 月から 5 月頃に発表されるイコモスの勧告を踏まえて、同年 6 月から 7 月頃に開催される第 40 回世界遺産委員会にて世界遺産登録の可否が審議・決定されます。



大浦天主堂 (長崎県)

提供: 長崎県

## 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」の登録審議

昨年1月末にユネスコ世界遺産センターに推薦書を提出した「明治日本の産業革命遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」については、同年9月24日～10月7日、イコモスの調査員が、現地調査を行いました。本年5月4日には世界遺産委員会の諮問機関であるイコモスより世界遺産に登録すべき旨勧告されました。同勧告を踏まえ、本年6月28日～7月8日の第39回世界遺産委員会(ドイツ、ボン)において、同物件の世界遺産登録の可否が審議される予定です。



富士山反射炉(静岡県)

## 「富岡製糸場と絹産業遺産群」世界遺産認定書伝達式



世界遺産認定書交付後の記念撮影

平成27年4月14日、文化庁において、「富岡製糸場と絹産業遺産群」世界遺産認定書伝達式が開催されました。伝達式では、昨年6月の第38回世界遺産委員会における「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産一覧表への記載決定を受け、ユネスコより送られた世界遺産認定書が披露され、青柳文化庁長官から大澤正明群馬県知事及び関係4市町の首長に対し、認定書のレプリカが手渡されました。

## 無形文化遺産保護条約

### 「山・鉾・屋台行事」の再提案

平成27年3月5日、外務省主催で無形文化遺産保護条約関係省庁連絡会議が開催され、「山・鉾・屋台行事」をユネスコ無形文化遺産に再提案を行うことが決定され、ユネスコ事務局に提案書が提出されました。

今後は、平成28年秋にユネスコ政府間委員会(無形文化遺産保護条約政府間委員会)において、登録の可否に関する審議が行われる予定です。

※「山・鉾・屋台行事」は、昨年、我が国より一度提案しましたが、ユネスコの審査件数の上限(50件)を上回る提案(61件)が各国からあり、無形文化遺産の登録がない国などからの提案を優先して審査する国際ルールに基づき、我が国の審査が1年先送りされたため、今回再提案を行ったものです。

## ユネスコ記憶遺産

### 国内公募の申請状況について

ユネスコ記憶遺産の申請は、2年に1度、1国から2件以内とされていますが、近年の我が国におけるユネスコ記憶遺産への関心の高まり等から、今後も2件を超える申請が想定され、国内申請プロセスの見直しが必要とされていました。これに伴い、日本ユネスコ国内委員会文化活動小委員会ユネスコ記憶遺産選考委員会において検討を行った結果、これまでの個人・団体等によるユネスコへの直接申請を改め、国内公募によりユネスコの審査に付する物件を選定することが決定されました。平成28年申請物件の公募は、平成27年3月2日から開始し、平成27年6月19日18時で締切りました。申請件数は全16件であり、今後9月までに同選考委員会において、最大2件の選定を行います。

## 信託基金を通じたユネスコへの支援

### 持続可能な開発のための教育(ESD)交流・協力信託基金

「国連の持続可能な開発のための教育の10年(DESDE)」の提案国としてESDの推進に貢献するため、ユネスコに対して信託基金を拠出し、ユネスコ加盟国に対して教育関係者を対象にしたESDワークショップ、ESDの教材開発や普及啓発、モニタリング・評価等の事業を実施しています。

### アジア・太平洋地域教育協力信託基金

アジア・太平洋地域における教育の充実と質の向上に貢献するため、ユネスコに対して信託基金を拠出しています。これにより、ユネスコバンコク事務所が中心となって、EFAの目標達成やESDに関連した支援事業をはじめとする、様々な事業を実施しています。

例えば、韓国で開催された世界教育フォーラムに関連するアジア太平洋地域会合の実施、幼児教育教員の地位向上や専門性の深化のための政策指針の作成、インクルーシブ教育やEFA・ESDの概念や価値観を教員養成やカリキュラム開発に統合していくアドボカシー活動、ESDの一環としての防災教育の普及、生涯教育のハブセンターとしてのコミュニティ・ラーニング・センター(CLC)の地域基準の特定支援等の事業を実施しています。

「アジア太平洋地域におけるESD強化のための教育者向け無形文化遺産の促進」プロジェクトにおいては、アジア太平洋地域の4か国を主な対象に定め、ESDを教育的な枠組みに設定し、無形文化遺産を学習環境や教材に組み込んでいくことで、文化の多様性の尊重や持続可能な社会の構築支援等の事業を実施しました。2015年3月には、教授指針、教材作成方法、優良事例等をまとめた地域の教育者向けガイドライン『Learning with Intangible Heritage for a Sustainable Future (持続可能な未来のための無形遺産を通じた学び)』が作成され、域内の教育省、教員養成機関等の関係者に共有されました。



『持続可能な未来のための無形遺産を通じた学び』表紙  
(UNESCO ホームページより)

## ユネスコ地球規模の課題解決のための科学振興事業信託基金

アジア・太平洋地域における科学事業を支援するために、ユネスコジャカルタ事務所に対して信託基金を拠出しており、科学技術分野における研究活動や人材育成等に貢献しています。

例えば、ジャカルタ事務所と京都大学防災研究所・名古屋大学地球水循環研究センター共催のもと、国際水文学計画(IHP)事業を担う水分野の専門家の人材育成を行っています。

また、生物多様性の保全、持続可能な発展、学術研究支援を目的として、ユネスコが指定する生物圏保存地域(国内呼称:ユネスコエコパーク)を活用して、自然と人間社会の共生に必要な教育事業や科学調査事業、政策形成支援などを実施しています。

## 各国との交流

### ESD 日米教員交流プログラム

日米教育委員会では、ESDを共通のテーマとし、日米の相互教員交流を通じて、意見交換、共同研究を行うことにより、日米の教育交流及びESDの推進を図ることを目的としたプログラムを平成22年より実施しています。

平成27年度は、4月26日から5月8日にかけて、日本の教員の米国訪問プログラムが行われ、全国より集まった14名の教員が、米国を訪問しました。まず、ワシントンD.C.では、小・中学校で理科や社会科等の授業を視察したほか、ESDに関する教材やカリキュラムの作成を行う教育機関を訪問しました。次に、サンフランシスコでは、日米双方の教員が参加し、「食育」と「環境教育」を題材として、参加教員の所属する学校間でプログラム終了後に実施する共同プロジェクトの内容を検討するための合同会議が開催されました。

なお、6月23日から7月5日にかけて、米国の教員による日本訪問プログラムが行われます。

また、参加後には、それぞれの教育現場でESDカリキュラムの導入、共同プロジェクトの実施、教員ネットワークの構築などの交流が図られています。これまでに延べ362名の日米の教員が参加しました。

<http://www.fulbright.jp/esd/project.html>



平成27年度のプログラムは以下の通り実施されました。

○日本人教員渡米(14名)

日時:平成27年4月26日～5月8日

(合同会議5月4日～5月6日)

訪問都市:ワシントンDC、サンフランシスコ

○米国人教員来日(14名)

日時:平成27年6月23日～7月5日  
(合同会議7月2日～7月4日)  
訪問都市:東京都、福岡県大牟田市



## 韓国ユネスコ国内委員会主催職員交流事業

平成27年3月9日から15日の日程で、韓国ユネスコ国内委員会主催職員交流事業が実施されました。本事業には、日本のほか、中国、タイ、フランスのユネスコ国内委員会職員が参加したほか、一部のプログラムには、ブータン及びクック諸島の国内委員会職員も参加しました。

韓国国内委員会における活動紹介に関するプレゼンテーションでは、参加者が各国内委員会の概要及び重点・関心事項を相互に紹介し合うことにより、それぞれのユネスコ活動の現状及び課題について把握することができ、今後の連携協力関係強化に向けた理解の増進を図ることができました。

また、ユネスコカテゴリー2センターである、APCEIU(アジア太平洋地国際理解教育センター)及びICHCAP(アジア太平洋無形文化遺産センター)を訪問したほか、慶州のユネスコ世界文化遺産等を視察しました。



# 民間ユネスコ活動

## 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

### I. 学校関連事業

◆守ろう地球のたからもの世界遺産「白神山地」周辺地域で2008年～2012年の5年間に植樹した約10万本の苗木の育樹活動を行った。2015年6月27-28日、三菱UFJフィナンシャル・グループ社員が植樹作業にボランティア参加した。〔協力：三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)〕

◆みどりの絵コンクールは、描くことを通じて子どもたちが自然に親しみ、自然の美しさ・大切さを知ってもらうことを趣旨とした絵画コンクール。第40回となる本コンクールの作品を募集中。〔協力：三菱UFJ環境財団〕

### II. ユネスコスクール関連事業

◆ユネスコスクールへの活動助成

第6期「ユネスコスクールESDアシストプロジェクト」に102校から申請があり、平成27年3月2日に102校への助成が決定しました。〔協力：三菱東京UFJ銀行〕

◆第5回「ESD国際交流プログラム」

高校生ESD作文コンテスト実施した201名の中から選ばれたユネスコスクールの高校生6名と当連盟理事・職員2名が、平成27年3月21日～28日までドイツ及びフランスのユネスコスクール、UNESCOパリ本部等を訪問し、交流活動を行うことが決定しました。〔協力：三菱東京UFJ銀行〕

No.	氏名	学校名	所在地	学年	性別
1	石川 千尋	山梨英和高等学校	山梨県	2	女
2	大久保 咲希	神戸市立葺合高等学校	兵庫県	2	女
3	菅 むつみ	愛知県立愛知商業高等学校	愛知県	1	女
4	奈良 勇輝	高水高等学校	山口県	2	男
5	長谷川 美佳	福島県立安達高等学校	福島県	2	女
6	山中 瑛介	愛媛県立新居浜東高等学校	愛媛県	2	男



#### ◆ 「ユネスコ協会 ESD パスポート」

学校教育が取り組んでいる「持続可能な開発のための教育(ESD)」の相乗効果を高めるために、ユネスコ協会が児童・生徒のボランティア活動を促進する目的で「ユネスコ協会 ESD パスポート」を使用した教育実践を実施しています。この ESD パスポートを通じて子供たちが地域の課題を主体的にとらえ、解決のために自ら考え、行動する機会を提供し、学校と協働して持続可能な社会づくりと人材育成を目指します。平成 27 年度は、全国で 28 のユネスコ協会が地域の学校やユネスコスクールと活動を行います。平成 27 年 6 月 20 日には、キックオフ会議を東京で開催しました。小学生向けのパスポートも制作しました。



小学生用

中・高校生用



#### ◆サイエンススクール

「いのちと健康」をテーマに生命や科学への興味とその大切さを学ぶ機会として、2011 年より小学校対象の出前授業「サイエンススクール」を実施しています。平成 27 年度は 6 月から 12 月までの間にユネスコスクールを含む小学校 10 校で授業を行います。第 1 回目は、6 月 22 日に、京都府立下京渉成小学校の子どもたちに出前授業を実施しました。授業では、身体のメカニズムや薬の発見、科学者たちのルール、軟膏づくりなどを体験し、子どもたちが生命や科学に興味を持つきっかけとなりました。〔協力：MSD 株式会社、各地ユネスコ協会〕

### Ⅲ. 東日本大震災復興支援活動

#### ◆MUFG-ユネスコ協会復興育英基金

三菱 UFJ フィナンシャル・グループの資金援助を得て、小学 1 年から高校 3 年までの遺児・孤児 1,048 名に奨学金を給付しています。(平成 27 年 3 月現在)



#### ◆ユネスコ協会就学支援奨学金

東日本大震災によって、著しく経済状況が悪化した家庭の子どもたちのために、これまで16市町村（岩手県陸前高田市、宮古市、釜石市、大槌町、山田町、大船渡市、宮城県気仙沼市、石巻市、南三陸町、東松島市、仙台市、名取市、女川町、山元町、福島県相馬市、南相馬市、いわき市）の奨学生2,345名に、奨学金を給付してきました。（平成27年5月現在）

また、平成27年3月11日には、日本経済新聞にて本奨学金の募金を呼びかけました。

#### ◆アクサ ユネスコ協会減災教育プログラム

今後起こりうる自然災害に備えるため、減災（防災）教育に取り組む小・中・高校への活動助成を行っています。平成27年6月12日に助成金審査会を実施。〔協力：アクサ生命保険株式会社〕

#### ◆東日本大震災を心と記憶にとどめるユネスコ・ボランティア交流ツアー

平成27年7月31日～8月3日まで、16歳から35歳までの青年を対象に、被災地の視察およびボランティア活動ツアー実施に向けて、参加者を募集中。詳細は当連盟ホームページ <http://www.unesco.or.jp/unesco/news/2015/8311515490906.html> をご覧ください。

## IV. 世界寺子屋運動

#### ◆アフガニスタン寺子屋プロジェクト

①カブール県パグマン郡での寺子屋建設、②カブール市内やバーミヤン県の寺子屋での識字クラスの実施、③各地寺子屋での収入向上・職業訓練を中心に事業を実施しています。

パグマン県での寺子屋建設は、順調に建設が進んでおり、今秋には開所式を実施予定。識字教室については、民家を使ったクラスが始まっており、150人の人たちが参加しています。





◆アンコール寺子屋プロジェクト（カンボジア）

シェムリアップ州の 12 軒の寺子屋で、610 人が識字クラスを卒業しました。また、小学校を退学してしまった子どもたちの復学支援クラスでは、6 クラス 150 名が学びました。新しい寺子屋含め 13 軒の寺子屋で、次に始まる識字クラスなどの開講へ向けて準備を進めています。6 月下旬には、「識字クラス」「幼稚園クラス」の教員研修を実施しました。



◆ネパール寺子屋プロジェクト

南部ルンビニの 12 地域およびカトマンズの 4 地域の寺子屋 16 軒で、約 6600 人が識字クラスで学び、小学校クラスでは約 280 人が学習しました。



◆ネパール大地震募金

4 月 25 日にネパール中部で発生した大地震の被災者に対して、世界寺子屋運動で支援を行っているカトマンズ地域の 4 つの寺子屋の学習者やその地域の人びとを対象に支援を実施しています。瓦礫やれんが作りの家が倒壊しているため、瓦礫を処理するための道具や、家に住めなくなった方々のためのシェルターを提供しています。



◆第2回高校生カンボジアスタディツアー

2015年8月12日から21日、高校生を対象に世界寺子屋運動のカンボジア支援地へのスタディーツアーを実施する。岡山県立美作高等学校の鈴木 昌徳校長を団長に、参加者10名が決定した。【協力：公益財団法人かめのり財団】

	氏名	性別	学校名	学年	推薦者
1	岩上 遥香	女	私立東京農業大学第三高等学校	1	寄居地方ユネスコ協会会長
2	加藤 瑞紀	女	大分県立大分上野丘高等学校	2	大分県ユネスコ協会連盟会長
3	佐々木 将人	男	北海道札幌平岸高等学校	3	学校長
4	角田 陸	男	宮城県富谷高等学校	2	学校長
5	堀越 未生	女	立教女学院高等学校	3	学校長
6	本田 彩葉	女	大阪府立佐野高等学校	3	学校長・大阪ユネスコ協会会長
7	松井 玲菜	女	海星学院高等学校	1	学校長
8	宮下 加奈子	女	群馬国際アカデミー	2	学校長・太田ユネスコ協会会長
9	茂木 ひかり	女	国府台女子学院高等部	2	柏ユネスコ協会会長
10	山崎 紀奈里	女	岡山県立岡山一宮高等学校	2	学校長

◆教員対象カンボジアスタディーツアー

2015年8月12日から16日、寺子屋プロジェクト実施校教員へのスタディーツアーへの助成を実施する。暁学園暁小学校の水谷浩三校長を団長として、市川栄作教諭（海星学院高等学校）、木下浩利教諭（宮崎県西都市立妻南小学校）、堀井清毅教諭（西町インターナショナルスクール）、石川 ちひろ教諭（福岡県立武蔵台高等学校）が参加することが決まった。

◆「書きそんじハガキ・キャンペーン 2015」

全国から155のユネスコ協会が参加し、150万枚を目標にハガキを回収しました。参加ユネスコ協会向けにハガキ回収事例や寺子屋情報などをまとめたマニュアルを配布。株式会社電通の協力で、新しいキャラクター「書きそんじロー」に加えて「タンス遺産3兄弟」を用いて、フェイスブックやグッズを刷新しました。楽しくご協力いただけるよう、「タンス遺産3兄弟」による映像も制作し、ホームページ等で広報しています。[協力：電通]



## V. 一杯のスプーン支援活動

◆アフガニスタン・カブール市内で母子を対象に医療支援・栄養補助食品を配布しています。一日平均100人以上の患者が診察に訪れ、月約200人の子どもたちに栄養補助食品が届けられてました。



◆ネパール・ルンビニの寺子屋 12 軒で栄養不良の子どもたち 4,240 人に対象に栄養補助食品を配布しました。並行して、寺子屋スタッフを対象に栄養に関する研修を3回にわたって行いました。

◆カンボジアに将来にわたって安全な水を届けることを目的として、2013年度からの3カ年計画「天空の杜プロジェクト」を実施中。シエムリアップ州内3つの郡立病院と13軒の寺子屋にはろ過浄水機とソーラーシステムなどの機材を設置し、現地スタッフへのメンテナンス研修を行いました。



また、カンボジアの農村部に将来にわたって安全な水が届く環境を整えるため、「衛生教育」のプログラムを予定し、村の人びとの衛生に関する知識の調査と並行し、教材を開発中。[協力：株式会社富山環境整備]

## VI. 世界遺産・地域遺産支援活動

◆カンボジア・アンコール遺跡バイヨン寺院彫像修復プロジェクト  
世界遺産「アンコール」遺跡のひとつであるバイヨン寺院のナーガ像やシンハ像の修復活動支援を、日本政府アンコール遺跡救済チーム(JASA)の技術協力のもと、カンボジア NGO (JST:アンコール遺跡の保全と周辺地域の持続的発展のための人材養成支援機構)と協力して行っています。主に、バイヨン寺院外回廊にあるナーガ像・シンハ像の修復・再設置を行うとともに、JASA の20年間の活動によって育成されてきた熟練のカンボジア人から、若手のカンボジア人へと技術を継承していきます。



2014年にご寄附いただいた個人や企業のお名前を彫った銘板が完成しました。

### ◆未来遺産運動

#### A) プロジェクト未来遺産 2015

長い歴史を超えて人々が守り続けてきた文化遺産や、自然とともに生きる知恵や工夫の中でつくりあげてきた自然遺産という豊かな贈り物を未来に伝えていこうという人々を応援する事業。

平成 27 年 5 月 18 日～7 月 31 日まで申請受付中。詳細は当連盟ホームページ <http://www.unesco.or.jp/mirai/news/2015/8111518003005.html> をご覧ください。

◆チーム エナセーブ 未来プロジェクト

住友ゴム工業株式会社（ダンロップ）との協働事業として平成 25 年より開始した「チーム エナセーブ 未来プロジェクト」。平成 27 年度は、未来遺産登録地など全国 10 カ所で、12 回を予定。現在までに 3 カ所（和歌山県、岡山県、埼玉県）で、同社社員が清掃などのボランティア活動を実施しました。〔協力：住友ゴム工業株式会社（ダンロップ）〕



**VII. 民間ユネスコ運動の振興**

◆第 71 回日本ユネスコ運動全国大会 in 和歌山

テーマ：「持続可能な平和のために！」 ～ “会話” を広げるユネスコ～

日 時： 2015 年 6 月 6 日（土）～7 日（日）

主 催： 日ユ協連、和歌山県ユネスコ連絡協議会、和歌山ユネスコ協会

会 場： 和歌山市民会館 大ホール

2 日間にわたり、ESD や世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に関するパネルディスカッション、子どもたちの ESD 活動発表、漫画家の松本零士氏による特別講演、和歌山の伝統文化についての講演など多彩なプログラムが行われました。また、会場では「わたしのまちのたからもの絵画展」や和歌山の地域文化を紹介するパネル展、ネパール募金も行われ、日本全国から、2 日間でのべ約 1,900 人が大会に参加しました。



#### ◆ユネスコ子どもキャンプ

平成27年8月2日(日)～5日(水)、第47回ユネスコ子どもキャンプが千葉県立内浦山県民の森で行われます。テーマは、「心のピース感じて、つなげて」。

参加者は10名程度の班に分かれ、野外生活を体験。各班に指導者がつき、プログラムの進行、生活面での指導にあたります。～6月20日まで参加者を募集しました。



#### ◆2015年度青少年ユネスコ活動助成

①ユネスコ活動の青年への普及②青年による課題解決③ユネスコ協会とユネスコスクールの連携事業の3つを対象に募集し、61件の申請があり(昨年比10件増)、5月12日の審査員会を経て採択されました。

#### ◆青年ユネスコ研修制度

国内外の外部団体が主催する研修へ参加補助を引き続き、青年会員を対象に実施します。7月25日～29日(7月24日は事前研修会)、中国・北京で行われる日・中・韓青年文化フェスティバルに引率として青年会員を募集し、2名の参加が決定しました。

### VIII. 国際交流事業

#### ◆三菱アジア子ども絵日記フェスタ

1990年より実施している「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」。現在、平成27年6月1日～平成28年1月15日まで、2015-2016期の作品募集中。詳細は当連盟ホームページ

(<http://www.unesco.or.jp/unesco/news/2015/8321517033606.html>)をご覧ください。

[主催：三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟、日本ユネスコ協会連盟]



## IX. UNESCO との連携

### ◆UNESCO パリ本部とのパートナーシップ協定

平成24年2月にUNESCO本部と日本ユネスコ協会連盟が締結したUNESCOパートナーシップ協定により、日本国内の企業・団体・個人からの支援によってUNESCOのプログラムを支援する枠組みができました。平成25年9月よりANAがUNESCO公式サポーターとなり、マイレージプログラムを活用したUNESCOへの寄附「UNESCOマイル寄附」を3月まで行いました。また、平成27年5月30日には、ANA社員と京都の世界遺産の一つ、上賀茂神社にて文化・環境保全活動を実施。京都三大祭の「葵祭」に使用するフタバアオイの植栽や、畑の整備、本殿周辺の除草作業等をANAグループ36名にて行いました。[協力：ANA]



## X. 普及広報活動

◆日ユ協連ホームページにて活動ニュースやブログなどで情報を定期的に発信しています。



◆フェイスブックでは、世界寺子屋運動、世界遺産活動、東日本大震災の支援地の情報、トピックスなどをいち早く発信し、多くの人びととの情報共有を図っています。登録者は、平成27年6月22日時点で2,650名。

<http://www.facebook.com/unesco.or.jp>



◆機関誌「ユネスコ」4月号を発行しました。



◆ユネスコ情報マガジン（メール配信）第205～206号を発行しました。



## 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

人をつなぎ、知をはぐくみ、未来をひらく

ACCU はアジア太平洋地域の人々と共に学びの輪を広げます

### <人をつなげる、未来とつなげる>

ユネスコの精神を実現する学校、地域、人のネットワークの拡大と充実のために・・・

◆持続可能な開発のための教育(ESD)を推進し、ユネスコスクールを応援しています

### 日本ユネスコパートナーシップ事業

文部科学省の委託を受け、ユネスコスクール事務局を運営し、ユネスコスクール加盟を検討している学校の相談窓口となり、申請の事務手続きのサポートをしています。加えて、ユネスコスクール公式ウェブサイト運営管理のほか、平成 27 年度からは ASPUnivNet (ユネスコスクール支援大学間ネットワーク) の事務局も併せて務めています。ユネスコスクール活動のサポートを行っています。平成 27 年 5 月現在、国内では 939 校がユネスコスクールに加盟しています。

○これまでの日本のユネスコスクールの取組、そして課題を制作物にまとめました。



日本のユネスコスクールが取り組んできた ESD 実践の特色を探り、これまでの成果を整理するとともに課題についても明らかにしつつ、今後の ESD の実践の質を高めていくための参考としていただくことを目的に発行し、全国のユネスコスクールならびに、関係者に送付しました。『ユネスコスクールの今 ひろがりつながる ESD 推進拠点』

○加盟希望校が申請書をまとめる際の手引きを ASPUnivNet (ユネスコスクール支援大学間ネットワーク) 加盟大学の協力を得て、新しく用意しました。

<http://www.unesco-school.jp/howtoapply/to.boe/>

○海外のユネスコスクールとの交流をサポートします！

<交流先を斡旋しています>

「世界中のユネスコスクール・ネットワークを活用し、海外の学校、児童生徒間、教師間の交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと」を身近に、簡単に実践してもらえるように、交流先の斡旋を行っています。30 以上のユネスコ加盟国のユネスコスクール担当者にもよびかけ、交流の輪が広がるように、支援しています。

<問題解決型国際協働プロジェクトを実施します>

2011 年より ACCU が実施した「お米」をテーマとした持続可能な社会のための「変化の担い手」となる若者育成を目指した、「ESD Rice プロジェクト」の後継プロジェクトとして、「食」をテーマとしたプロジェクトをインドの環境団体 (Centre for Environmental Education) と一緒に行います。プロジェクト開始に向けて、準備を進めています。

## <バルト海プロジェクト国際会議に参加しました>

ユネスコスクールのフラッグシップ・プロジェクトの1つに良くあげられるバルト海プロジェクトの第9回国際会議(エストニア)に参加いたしました。バルト海プロジェクトは1989年にスタートした、バルト海周辺の環境問題に生徒、教員が取り組むプロジェクトです。バルト海を囲む9か国(+日本)から約200名の教員、生徒が参加する大きな会議でしたが、エストニアの高校生30名が主体となり会議の司会進行、写真係、音響等を担当し、ホスト国(エストニア)もゲスト国(その他8か国)も参加している生徒、教員がともに学びあっている姿が印象的でした。日本のユネスコスクールのあり方について、とても考えさせられる機会となりました。

## 国際会議への参加

ESDの後継プログラムとして謳われているESDグローバル・アクションプログラム(GAP)において、優先分野の一つである“Whole Institution Approach(機関包括型アプローチ)”のメンバーとして、ACCUはユネスコとGAPパートナーとなりました。2015年5月26日-27日にはGAPパートナーネットワークの第一回会合が開かれ、ACCUもGAPに対してコミットすることが求められています。

## 国際プロジェクトの実施

### ーESD Rice プロジェクト

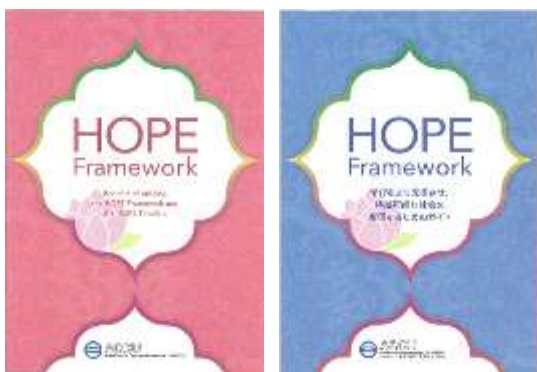
本プロジェクトは「お米」を国際協同学習の共通のテーマとし、持続可能な社会のための「変化の担い手」となる若者を育成することを目指しておりACCUが2011年より実施しています。

本フェーズ(2013~2015年)は次の5点に焦点を当てたプロジェクトを行いました。第1にユネスコスクール間の国際協同学習の推進、第2に「変化の担い手」となる若者の育成、第3にESDの推進、第4に学校と地域に根ざした学習の推進、第5に現職教員研修です。

2015年1~3月にタイ・インド・フィリピン・インドネシアでモニタリングを行い、その成果をまとめています。モニタリング・評価ではACCUが開発したHOPEフレームワークを活用しました。また、HOPEのリーフレットも改定致しました。

\*ユネスコの委託により本事業を実施

プロジェクトのウェブサイト:<http://www.esdriceproject.com/>

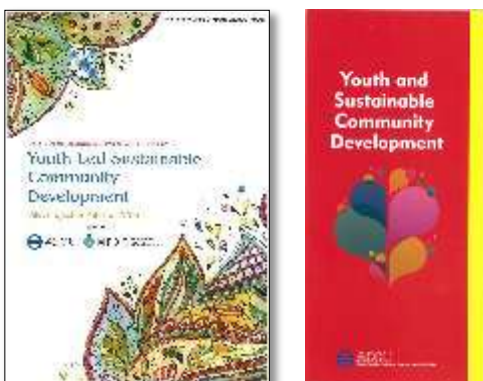


## パキスタンで若者主体のコミュニティ開発のための事業の実施

南アジア地域の若者(15~35歳)がみずから持続可能なコミュニティ開発を遂げるよう、ESDを通して支援を行う本プロジェクトは2014年よりACCUが新たに実施している事業です。

本事業の目的は第1に、若者の主体的な学びを通して持続可能なコミュニティを創造する「変化の担い手」を育成すること。第2に、「変化の担い手」が地域の持続可能な開発に向けて具体的な活動を起こすことです。パイロットフェーズとして位置づけられた平成26年度はパキスタン国パンジャブ州にある2つの村、60名の男女を対象に、現地NGOと協同して事業を行い、リーフレットを発行しました。

平成27年度の事業は、パイロット事業の成果を受け、対象国をパキスタンとバングラデシュとし、二ヶ国合計400名の若者を対象とします。



\*平成26年度政府開発援助ユネスコ活動費補助金事業により実施

## 教職員の国際交流

ー中国に日本人教職員を派遣しました

ACCU では日韓、日中間で初等中等教職員交流プログラムを実施しています。

国際連合大学が主催し、中国教育部の協力のもと、「中国政府日本教職員招へいプログラム」を実施しました。(2015年5月24日～31日)。

訪中に先立ち5月23日にオリエンテーションを実施しました。中国の教育について学び、訪中時の役割を確認するなど、訪問の準備を整えました。日本教職員は北京のほか、広西チワン族自治区、上海を訪問し、学校訪問等により中国での教育を視察し、児童生徒、教職員と交流しました。

韓国への派遣プログラムは、韓国ユネスコ国内委員会協力のもと、2015年8月に実施を予定しています。

また、2015年度には中国・韓国・タイの教職員の招へいプログラムも予定しています。



ーESD 日米教員交流プログラムを実施しました

日米教育委員会(フルブライト・ジャパン)の委託により、日本側運営団体として「ESD 日米教員交流プログラム」を実施しました。

このプログラムは、ESD をテーマとし、選抜された日米の教員が相互に相手国を訪問し、交流を行うことで日米の教育交流と ESD の推進を図ります。学校訪問、児童生徒や教員との意見交換、教育関連施設視察、ホームステイ等を通じて、お互いの文化を知るとともに、日米両国で協力して教材、研究活動、授業等の計画を立てるため、相手国訪問中に日米教員が全員集まる合同会議が開催されます。本年も米国ではサンフランシスコで、日本では東京で開催されました。この会議には過去の参加者の一部も事例発表者として参加し、年度を超えた交流も図っています。

4月に日本人教員14名が訪米し、6月には米国人教員14名が来日して東京都、福岡県大牟田市で交流活動を行いました。

平成22年度から始まり、今回が6回目となりました。これまでの共同プロジェクトの一部は日米教育委員会のウェブサイトでご覧いただけます。

<http://www.fulbright.jp/esd/project.html>

## ◆次世代のグローバルリーダーを応援しています(模擬国連推進事業)

支援企業からのご寄附を得て、次世代の国際人/グローバルなリーダーを育成することを目的にグローバル・クラスルーム日本委員会と協力し、高校模擬国連事業を実施しています。



このプログラムは英語によるプレゼンテーション能力はもとより、交渉を通じてより良い解決策をさぐるなど課題に対する総合的な処理能力を鍛えること、同世代の交流を通じてコミュニケーション力を高めることを通じてグローバルな社会を担う未来のリーダーを育てることを目的としています。

平成26年11月に開催された第8回全日本高校模擬国連大会で優秀な成績を収めた6チーム12名の高校生を平成27年5月に米国ニューヨーク市で開催されたグローバル・クラスルーム高校模擬国連国際大会に派遣しました。本大会の開会

式、閉会式は国連本部で開催されました。日本代表団はシリア・アラブ共和国を担当し、桐蔭学園中等教育学校が優秀賞を受賞、初めて派遣校に選ばれた六甲高等学校がベストポジション・ペーパー賞を受賞するなど優秀な成績を収めました。6月21日には派遣報告会を行い、模擬国連活動をしている高校生・教員や活動にご支援をいただいている企業の方に対し、派遣生や引率として参加した大学生からの報告を行いました。

7月には、本年11月に開催される第9回全日本高校模擬国連大会に向けて課題を発表し、広く高校生に参加を呼びかけていく予定です。

## ＜すべての人に教育を、すべての人に笑顔を＞

ユネスコの推進するEFA(Education for All、万人のための教育)の目標を達成するために・・・

### ◆母子保健をテーマにした識字教育支援プロジェクトを実施しています

「読み書きを学び、子どもに勉強を教えたい。」「自分がモデルとなり、子どもが学校に通うように励みたい。」「子どもを健康に育てるための食事について学びたい。」そんな思いを胸に、小さな子どもたちを育てるカンボジアのお母さんたちは、SMILE Asia プロジェクトの識字教室に通っています。



SMILE Asia プロジェクトは ACCU がアジアで推進する母子保健をテーマにした識字教育支援プロジェクトです。これまでにアジアの7か国で展開し、現在はカンボジアで実施しています。女性の関心の高い母子保健をテーマにし、家庭でも子どもと一緒に活用できる教材を提供することで、クラスを卒業した後も日常生活で、識字能力を使い続ける環境を現地の団体と一緒に作っています。

2014～15年はプノンペン市に新しく編入された地域で活動を開始しています。

このプロジェクトは凸版印刷株式会社をはじめ、皆さまからのご寄附により行っています。

口座名	ACCU アジアの女性識字振興基金
口座番号	00120-7-365298(ゆうちょ銀行)

### ◆アフガニスタン国識字教育強化プロジェクトへ職員を派遣しています

JICA(独立行政法人国際協力機構)が実施している「アフガニスタン国識字教育強化プロジェクトフェーズ2」に職員を派遣し、アフガニスタン教育省識字局とともに、同国識字局のモニタリング・技術支援能力の強化に関わる活動を行っています。治安状況の問題により、アフガニスタンへの日本人の渡航が難しいため、3月29日～4月19日、5月17日～6月8日の2回にわたって識字局職員やプロジェクト現地職員をインドに招へいし、話し合いや研修を実施しました。



## <共にひきつぐ、文化と伝統>

奈良にある文化遺産保護協力事務所(ACCU 奈良事務所)では、ユネスコや ICCROM(文化財保存修復研究国際センター)など国際機関と連携して、専門家育成のための研修、文化遺産保護に関する情報発信などを行っています。

### ◆文化遺産保護の大切さを知ってもらうために・・・

世界遺産を通じ、文化遺産保護の重要性を楽しく学んでもらうことをめざして 2005 年から毎年、奈良県内の高校で日本や諸外国の世界遺産を題材に「世界遺産教室」を開催しています。2015 年度は県内 10 校で開催することが決まっており、5～6 月にすでに 4 校で実施されています。

\*奈良県・奈良市からの委託により本事業を実施

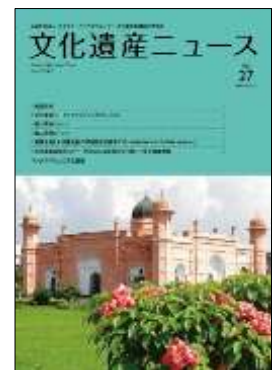
### ◆文化財の保存修復を担う人材育成のために・・・

平成 27 年度に実施する研修(集団・個人)、国際会議、ワークショップの日程、テーマ等を決定しました。

\*文化庁からの委託により本事業を実施

なお、過去に研修に参加したアジア太平洋地域の専門家に自国の文化財保護活動についての報告を依頼し、ACCU Nara International Correspondent としてまとめています。ACCU 奈良事務所のウェブサイトからダウンロード可能です。

2014 年度の取り組みを文化遺産ニュース Vol.27 にまとめ、3 月に発行しました。



## <ACCU 広報活動>

◆パンフレット、機関紙 ACCU ニュース、ウェブサイト、Facebook を活用して、ACCU の活動内容、最新情報を伝えています。ACCU news 396 号は、70 周年を迎えたユネスコと、ACCU の教育協力分野での歩みの特集し、7 月に発行する予定です。

【ウェブサイト】 <http://www.accu.or.jp>

【Facebook】 <http://www.facebook.com/accu.or.jp>

【奈良事務所ウェブサイト】 <http://www.nara.accu.or.jp/>

## <東日本大震災募金活動>

ACCU は東日本大震災被災地の教育復興の支援として、ACCU ウェブサイト、ユネスコスクール公式ウェブサイトで協力をよびかけ募金を行っています。この募金は全額被災地の教育復興のために使っていただいています。2015 年 1 月には福島県の教育委員会にお送りし、震災による原発被害などからの教育環境の復興に役立てていただきます。

引き続き募金の継続を呼びかけ、長期的な支援をめざします。

### ◆東日本大震災ユネスコスクール ESD 支援募金

三菱東京 UFJ 銀行	ゆうちょ銀行
支店名:神楽坂支店(店番号:052)	口座記号番号:00120-1-718642
口座番号:0057529 預金名:普通預金	口座名:公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター
口座名:公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	

# 日本ユネスコ国内委員会に関する参考資料

## 国際会議等一覧

会議等名称	開催日程 (開催地)	主な内容	我が国出席者
第15回 JCOMM 国内連絡会	27. 3. 6 (東京)	JCOMM 関連の国際的動向について報告が行われた。また、アルゴ、船舶、ブイ等海洋の現場観測の実施・観測結果の通報状況等の情報交換を行った。	文部科学省、気象庁、海上保安庁、防衛省、海洋研究開発機構、水産総合研究センター、東北大学及び東京大学関係官
津波及びその他潮位関連災害警戒・減災システム作業部会第8回会合 (TOWS-WG-VIII) 及び津波警報業務タスクチーム会合	27. 3. 11-13 (盛岡)	各 ICG から最近の活動状況に関する報告があったほか、各 ICG の情報発表対象領域図の作成、領域外で発生した地震に対する情報発表のありかた等について議論が行われた。	道田豊 IOC 副議長 (IOC 分科会委員・東京大学教授)、佐竹健治東京大学教授、柴田義孝岩手県立大学教授、鈴木亨海洋情報研究センター研究開発部長、谷伸 GEBCO 議長、馬場典夫海上保安庁海洋情報部海洋情報渉外官、小泉岳司気象庁地震火山部地震津波監視課国際地震津波情報調整官(タスクチーム会合のみ出席)
第3回国連防災世界会議	27.3.14-18 (仙台)	国連加盟国、国際機関、NGO 等から首脳・閣僚級を含む政府関係者などが参加し、次世代の世界防災戦略の策定等を実施した。	山脇良雄文部科学省国際統括官ほか
第5回世界島嶼沿岸生物圏保存地域ネットワーク会議	27.3.24-26 (バレッタ・マルタ)	13カ国18地域の島嶼沿岸生物圏保存地域関係者が集まり、意見交換	屋久島町、田中俊徳計画委員

会議等名称	開催日程 (開催地)	主な内容	我が国出席者
第196回ユネスコ執行委員会	27.4.8-4.23 (パリ・フランス)	技術職業教育訓練(TVET)の戦略実施やポスト 2015 年の教育アジェンダに関して議論を行ったほか、ボコバユネスコ事務局長、アルミニャン文化局事務局長補らと会談を行い、日本におけるユネスコへの貢献とこれからのユネスコ関連事業への協力等について意見交換を行った。	佐藤ユネスコ代表部大使, 山脇文部科学省国際統括官, 代表部館員ほか
IOCCP(国際海洋炭素連携プロジェクト)科学推進グループ第10回会合及びGOOS(全球海洋観測システム)物理パネル(OOPC)第18回会合同会合	27. 4. 14-17 (仙台)	本合同会合では、地球気候観測システム(GCOS)との関係など両パネルに共通する課題について議論した。IOCCP 科学推進グループ第10回会合では、IOCCP が取り組む諸活動の状況を報告し、方針を議論した。GOOS 生物地球化学パネルが推奨する Essential Ocean Variables の観測の現状を概観した。	須賀 利雄 IOC 分科会委員(OOPC 共同議長・東北大学教授)、石井雅男気象庁気象研究所海洋・地球化学研究部第三研究室長 ほか
PTWS 50 周年記念シンポジウム	27. 4. 20-21 (ホノルル・アメリカ)	PTWS の歴史を振り返る基調講演の後、3つのテーマ別セッションで講演およびパネルディスカッションが行われ、今後の津波防災のあり方について議論が行われた。	道田豊 IOC 副議長 (IOC 分科会委員・東京大学教授)、佐竹健治東京大学教授、小野裕一東北大学教授、山本雅博 IOC 元職員、関田康雄気象庁地震火山部長、尾崎友亮地震火山部地震津波監視課国際地震津波情報調整官、上山哲幸同技術専門官ほか
ICG/PTWS 第26回総会	27. 4. 22-24 (ホノルル・アメリカ)	気象庁が運営する北西太平洋津波情報センターのプロダクト改善など、PTWS の運営について議論が行われた。また、議長・副議長の選出が行われ、尾崎友亮気象庁地震火山部地震津波監視課国際地震津波情報調整官が副議長に選出された。	尾崎友亮気象庁地震火山部地震津波監視課国際地震津波情報調整官、上山哲幸同技術専門官

会議等名称	開催日程 (開催地)	主な内容	我が国出席者
第3回文化在不法輸 出入禁止条約締約 国会議	27.5.18-20 (パリ・フラン ス)	文化財不法輸出入等禁止条約 に係る運営指針が採択された 他, 同条約補助委員会の任務を 達成するためのロードマップ等 につき審議された。	ユネスコ代表部館 員, 文化庁, 河野俊 行九州大学大学院 法学研究院教授ほ か
世界教育フォーラム	27.5.19-21 (仁川・韓国)	EFA ダカール目標のレビューを 行うと共に, ポスト 2015 年教育ア ジェンダ行動枠組について議論 され, 仁川宣言が採択された。	前川喜平文部科学 省文部科学審議官 ほか
ICTとポスト 2015 教 育アジェンダに関す る国際会議	27.5.23-25 (青島・中国)	ポスト 2015 教育アジェンダのゴ ール達成に向けた ICT の活用方 策が議論された。	前川喜平文部科学 省文部科学審議官 ほか
第1回 GAP・パートナ ーシップ・ネットワ ーク会合	27.5.26-27 (パリ・フラン ス)	「ESD に関するグローバル・アク ション・プログラム(GAP)」の5つ の優先行動分野のパートナーが 集まり, GAP に沿って ESD を推 進していくためのネットワーク形 成が図られた。	靱井圭子文部科学 省国際統括官付国 際戦略企画官ほか
第5回文化多様性条 約締約国会議	27.6.9-12 (パリ・フラン ス)	締約国の取組状況について聴 取した。	文化庁、ユネスコ代 表部関係者がオブ ザーバーとして出席
第5回文化多様性条 約締約国会議	27.6.10-12 (パリ・フラン ス)	締約国の取組状況や、文化多様 性国際基金等について議論し た。	文化庁、ユネスコ代 表部関係者がオブ ザーバーとして出席



## ユネスコ関係者来日一覧

年月日	来訪者	内容
27.3.13-16	フラヴィア・シュレーゲル氏 (Ms. Flavir Schlegel) ユネスコ事務局長補(科学担当)	第3回国連防災会議出席
27.3.10-18	ハン・チュンリー氏 (Mr. Qunli Han) ユネスコ自然科学局部長	第3回国連防災会議出席

## 国内委員会会議

年月日	会議名	主な内容
27.3.26	第1回 ESD 特別分科会	今後のESDの推進方策について
27.4.21	第2回 ESD 特別分科会	今後のESDの推進方策について
27.4.8	日本ユネスコ国内委員会第126回自然科学及び第115回人文・社会科学合同小委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サステナビリティ・サイエンスの推進について</li> <li>・ユネスコにおける科学事業の在り方について</li> </ul>
27.5.18	第3回 ESD 特別分科会	今後のESDの推進方策について
27.5.18	第32回 MAB 計画分科会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第27回ユネスコMAB計画国際調整理事会への対応について</li> <li>・平成27年ユネスコエコパーク申請について</li> </ul>
27.6.8	第149回選考小委員会	国内委員会委員候補者の選考について
27.6.3	第65回 IOC 分科会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回会議以降の活動報告について</li> <li>・第28回IOC総会対処方針について</li> </ul>
27.6.16	第4回 ESD 特別分科会	報告書素案について

## 国内委員会委員人事

発令日	氏名	所属・職名
(新任)		
27.6.1	中西 正人	箕面ユネスコ協会顧問、国立大学法人大阪教育大学理事
27.6.1	山脇 良雄	国際統括官

国内委員会事務局人事異動

発令日	氏名	異動後所属・職名	異動前所属・職名
27.3.31	秋葉 正嗣	理化学研究所脳科学研究推進室長	文部科学省大臣官房付
27.3.31	本村 宏明	大臣官房国際課課長補佐	文部科学省国際統括官 国際統括官補佐
27.4.1	野田 昭彦	文部科学省国際統括官付 国際統括官補佐	名古屋大学国際部国際企画課長
27.4.1	泉澤 潤一	文部科学省国際統括官付 専門官	文部科学省高等教育局学生留学生課留学生交流室 専門官

## 日本/ユネスコパートナーシップ事業

文部科学省では、ユネスコの理念及び目的の実現に向けて、日本ユネスコ国内委員会で重視している事業を国内のユネスコ活動に係る機関及び民間団体等へ委託し、広く国民のユネスコ活動への参加の促進、更にはユネスコ活動の普及と理解の促進を図るため、日本/ユネスコパートナーシップ事業を実施しています。〔平成 27 年度予算額:73 百万〕

### (1)平成 26 年度事業実績

- ・事業規模:47 百万円
- ・実施件数:5 件
- ASPUnivNet 運営管理事業(国立大学法人岡山大学)
- ユネスコスクール事務局運営及びユネスコスクール公式ウェブサイト運営管理(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU))
- 世界遺産学習全国サミットの開催を含む ESD 並びに世界遺産学習の普及・推進事業(奈良市)
- ユネスコエコパークを活用した ESD 教材の開発(国立大学法人横浜国立大学)
- 持続可能な開発のための教育(ESD)の全国的かつ国際的な普及促進に資するための活動(国立大学法人宮城教育大学)

### (2)平成 27 年度実施計画

- ・事業規模: 73 百万円
- ・実施件数:6 件
- ・事業テーマ:ネットワークを通じた ESD(持続可能な開発のための教育)の推進等ユネスコ活動の普及・促進及び ESD に関する調査研究
- ユネスコスクール事務局運営およびユネスコスクール公式ウェブサイト運営管理および ASPUnivNet 事務局運営(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU))
- 第 7 回ユネスコスクール全国大会—持続可能な開発のための教育(ESD)研究大会(特定非営利活動法人日本持続発展教育推進フォーラム)
- 第 2 回 ESD 日本ユース・コンファレンスの開催ならびにユース世代のプラットフォーム構築に向けたオンライン・ディスカッションの実施支援(公益財団法人五井平和財団)
- 第 3 回 日本ユネスコエコパークネットワーク会議(長野県下高井郡山ノ内町)
- 教員研修プログラムのあり方に関する調査研究(国立大学法人奈良教育大学)
- ESD の教育効果(評価)に関する調査研究(国立大学法人岡山大学)

## ユネスコ活動費補助金(グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業)

文部科学省では、平成 26 年度から、教育委員会及び大学等が中心となり、ESDの推進拠点であるユネスコスクールと共にコンソーシアムを形成し、地域においてESDを実践することにより、ユネスコスクール以外へのESDの普及を図り、また、国内外のユネスコスクール間の交流の促進を通じ、国際的視野を持つグローバルな人材の裾野を広げることを目的として、本事業を実施しています。

### (1)平成 26 年度事業実績

- ・事業規模: 33 百万円
- ・実施件数: 5 件
- 東北の自然環境と防災及び国際連携をコアとしたグローバル人材の育成と ESD 地域モデルの創出(宮城教育大学)
- 北陸における知の拠点形成によるESD推進事業(金沢大学)
- 三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム(三重大学)

- グローバル人材育成を見据えたESDコンソーシアムの構築とユネスコスクール間交流による ESDの推進－国際(Think global)と国内(Act local)の融合－(奈良教育大学)
- グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業(福岡県大牟田市教育委員会)

(2)平成 27 年度実施計画

- ・事業規模: 57 百万円
- ・平成 27 年 1 月 28 日～2 月 17 日の期間で公募を行い、5 月 11 日付けで交付決定を行った。(採択件数:10)
- 東北の自然環境と防災及び国際連携をコアとしたグローバル人材の育成とESD地域モデルの創出(国立大学法人宮城教育大学)
- 北陸における知の拠点形成によるESD推進事業(国立大学法人金沢大学)
- 三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム(国立大学法人三重大学)
- グローバル人材育成を見据えたESDコンソーシアムの構築とユネスコスクール間交流によるESDの推進－国際(Think global)と国内(Act local)の融合－(国立大学法人奈良教育大学)
- グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業(福岡県大牟田市教育委員会)
- グローバル人材の育成に向けた地域と協働した岡山型ESD推進事業(岡山市教育委員会)
- グローバル人材育成をめざした福島原発被災地域におけるメディア活用型ESD地域学習支援モデルの創造(法政大学)
- 人間力を育む千葉ESDの地域展開(国立大学法人千葉大学)
- 各校種のユネスコスクールの特長を生かしたESD活動の展開と定着の試み(中部大学)
- 四国におけるグローバル人材の育成に向けたESD地域モデル推進事業(愛媛県新居浜市教育委員会)

**政府開発援助ユネスコ活動費補助金**

文部科学省では、民間ユネスコ活動への助成を通じて、我が国のユネスコ活動の進展並びにユネスコを通じた交流の促進に寄与することを目的として、民間のユネスコ活動の振興に資する事業を行う団体に対して、「政府開発援助ユネスコ活動費補助金」(アジア・太平洋地域等における開発途上国の教育、科学又は文化の普及・発展のための交流・協力事業)による補助を行っています。

[平成 27 年度予算案:32 百万円]

**【平成 27 年度公募期間】**

平成 27 年 1 月 21 日～2 月 17 日

(スケジュール)

平成 27 年 2 月 17 日	応募書類の提出締切
3 月中旬	審査委員会の開催
3 月下旬	採択結果通知及び補助金交付申請書提出依頼
4 月	補助金交付申請書提出 補助金交付審査
4 月～5 月	補助金交付決定及び通知
交付決定日～平成 28 年 2 月 29 日	補助事業実施

【平成 27年度実施計画】(補助総額: 32 百万円)

- アジア・太平洋地域 10 ヶ国における「21 世紀型スキル」育成のための教員の指導力を高める取り組みの比較分析(東響工業大学)
- 消滅の危機に瀕したアジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究(独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター)
- アセアンにおける学校財政運営管理マニュアルの開発(神戸大学)
- 若者主体の持続可能なコミュニティ開発プロジェクト(2014-2017)(フェーズ1)(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター)
- アジア・太平洋地域での第8期国際水文学計画(IHP)科学協力事業の先導(京都大学)
- 発展途上国の初等・中等教育における学習成果改善に寄与する指標構築事業(広島大学)

【参考:平成 26 年度事業実績】(補助総額: 57 百万円)

- IOC/WESTPAC における地域海洋学トレーニングセンター設置準備活動(東京大学大気海洋研究所)
- アジア・太平洋地域6カ国の教育現場における「21 世紀型スキル」育成のための教育活動の現状分析及び参加型教育政策データベースの活用促進(東京工業大学)
- 第 24 回ユネスコ国際水文学(IHP)トレーニング・コース「Forest Hydrology - Conservation of Forest, Soil and Water Resource(森林水文学 - 森・土・水の保全のために)」(名古屋大学)
- ミャンマーにおける持続可能な発展のためのエネルギー科学教育の推進(京都大学)
- アセアン4カ国における教育行財政研修ガイドブックの検証と活用(神戸大学)
- ブータン王国における無形文化遺産および有形文化遺産保護法整備及び普及支援事業(九州大学)
- ユネスコ・教育省・研究者共同によるインクルーシブ教育質向上プログラム(早稲田大学)
- 消滅の危機に瀕したアジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究(独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター)
- 若者主体の持続可能なコミュニティ開発のための学びパイロット事業(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター)

日本ユネスコ国内委員会後援名義一覧

事業名	主催団体名	後援期間 (事業実施期間)
日光の社寺ポスター	世界遺産「日光の社寺」プロモーション委員会	25.11.22 ～27.3.31 (25.11.22 ～27.3.31)
「アンネ・フランク展:希望の未来」	ホロコースト記念館	26.3.14 ～28.3.31 (26.3.15 ～28.3.31)
第11回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」	一般社団法人 日本損害保険協会	26.3.27～27.3.31 (26.4.1 ～27.3)
第26回MOA美術館児童作品展	公益財団法人 岡田茂吉美術文化財団	26.3.31 ～27.3.31 (26.4.20 ～27.3.31)
守ろう地球のたからもの	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	26.4.25～27.3.31 (26.4.25～27.3.31)
「地球っ子広場」活動事業	公益財団法人五井平和財団	26.6. 4～27.3.31 (26.4. 1～27.3.31)
映画「坑道の記憶 ～炭坑絵師・山本作兵衛～」の上映	RKB 毎日放送株式会社	26.6.25 ～28.3.31 (26.7.5 ～28.3.31)
映画「坑道の記憶 ～炭坑絵師・山本作兵衛～」の上映	RKB 毎日放送株式会社	26.6.25 ～28.3.31 (26.7.5 ～28.3.31)
未来遺産運動	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	26.7.3～27.3.31 (26.6.20～27.3.31)
2014年度(第6期)ユネスコスクール ESD アシストプロジェクト	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	26.12.25～27.3.31 (26.12.1～27.3.31)
世界一大きな授業 2015	教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)	27.1.26～27.5.31 (27.4.26～27.5.31)
宮崎ジャズデイ・ユネスコ430	宮崎国際ジャズデイ実行委員会、宮崎市民文化ホール	26.1.26 ～27.4.30 (27.4.18～27.4.30)
JAZZ AUDITORIA 2015	JAZZ AUDITORIA 2015 実行委員会	27.3.11～27.4.30 (27.4.24～27.4.26)
第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム	第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム組織委員会	27.3.16～27.9.20 (27.9.15～27.9.20)
第27回MOA美術館児童作品展	公益財団法人岡田茂吉美術文化財団	27.3.25～28.3.31 (27.4.10～28.2.18)
第12回小学生のぼうさい探検隊マップコンクール	一般社団法人日本損害保険協会	27.4.1～28.3.31 (26.11.15～28.1 下旬)
ユネスコ協会 ESD パスポート	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	27.4.9～28.3.31 (27.4.1.～28.3.31)
ユネスコ創造都市ネットワーク会議金沢2015	金沢市	27.4.6～27.5.31 (27.5.25～27.5.28)

事業名	主催団体名	後援期間 (事業実施期間)
ユネスコ無形文化遺産登録 記念「北大路魯山人 和食 の天才」展	京都国立近代美術館ほか	27.4.9～28.6.26 (27.6.19～28.6.26)
第71回日本ユネスコ運動全 国大会 in 和歌山	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟ほか	27.4.23～27.6.7 (27.6.6～27.6.7)
守ろう地球のたからもの	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	27.5.13～28.3.31 (27.5.13～28.3.31)
第55回国際理解・国際協力 のための全国中学生作文コ ンテスト	公益財団法人日本国際連合協会	27.5.13～27.10.24 (27.4.1～27.10.24)
第62回国際理解・国際協力 のための高校生の主張コン クール	公益財団法人日本国際連合協会	27.5.13～27.10.26 (27.4.1～27.10.26)
伊東昭義展-奇跡の海	株式会社幼児体育研究所	27.5.15～27.6.12 (27.6.1～27.6.12)
第47回ユネスコ子どもキャ ンプ	公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟	27.5.27～27.8.5 (27.8.3～27.8.5)
Kyoto Intercultural Summer School for Youths	特定非営利活動法人パンゲア	27.5.27～27.8.7 (27.7.31～27.8.7)
国際農学 ESD シンポジウム 2015 (Ag-ESD Symposium for Global Action Program)	筑波大学農林技術センター	27.6.11～27.11.20 (27.11.16～27.11.20)
第6回日本ESD大賞	NPO 法人日本持続発展教育推進フォー ラム	27.6.22～27.12.5 (27.6.1～27.12.5)

## ユネスコスクール新規加盟校一覧

◆ユネスコスクール加盟状況(平成 27 年 5 月現在) 加盟校数:939 校

(幼稚園 23、小学校 489、中学校 226、中高一貫校等 44、高校 124、大学 5、高等専門学校 1、特別支援学校 7、その他 20)

平成 27 年 4 月 23 日付け承認(30 校)

須賀川市立長沼東小学校	(福島県須賀川市)	岡山市立鯉山小学校	(岡山県岡山市)
金沢市立小坂小学校	(石川県金沢市)	大田区立馬込東中学校	(東京都大田区)
金沢市立西南部小学校	(石川県金沢市)	掛川市立北中学校	(静岡県掛川市)
金沢市立大徳小学校	(石川県金沢市)	名古屋市立宝神中学校	(愛知県名古屋市)
金沢市立緑小学校	(石川県金沢市)	岡山市立興除中学校	(岡山県岡山市)
高山村立高山小学校	(長野県上高井郡)	岡山市立高松中学校	(岡山県岡山市)
養老町立広幡小学校	(岐阜県養老郡)	周南市立和田中学校	(山口県周南市)
名古屋市立内山小学校	(愛知県名古屋市)	大分市立鶴崎中学校	(大分県大分市)
名古屋市立千早小学校	(愛知県名古屋市)	粟島浦村立粟島浦小中学校	(新潟県岩船郡)
橋本市立高野口小学校	(和歌山県橋本市)	野田学園中学高等学校	(山口県山口市)
岡山市立加茂小学校	(岡山県岡山市)	長野県中野西高等学校	(長野県中野市)
岡山市立興除小学校	(岡山県岡山市)	岐阜県立池田高等学校	(岐阜県揖斐郡)
岡山市立庄内小学校	(岡山県岡山市)	愛知県立安城東高等学校	(愛知県安城市)
岡山市立曾根小学校	(岡山県岡山市)	松江市立女子高等学校	(島根県松江市)
岡山市立東疇小学校	(岡山県岡山市)	愛知教育大学附属特別支援学校	(愛知県岡崎市)





## 今日よりいいアースへの学び

持続可能な開発のための教育（ESD）

日本ユネスコ国内委員会（文部科学省国際統括官付）

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

TEL: 03-5253-4111（内線 2937）

e-mail: [jpnatcom@mext.go.jp](mailto:jpnatcom@mext.go.jp)

HP: <http://www.mext.go.jp/unesco/index.htm>

facebook: <http://www.facebook.com/jpnatcom>

ESDポータルサイト: <https://www.esd-jpnatcom.jp/>

ESD facebook: <https://www.facebook.com/esd.jpnatcom/>

